

〔 所感 〕

長崎市議会議員 井上重久

2010年8月23日（月）友好都市「中国・福州市」へ表敬訪問

昭和55年10月20日（1980年）は、長崎市と中国・福州市との友好都市提携を結んだ日です、今年は、友好都市提携30周年を記念して市長を団長として公式訪問団43名、市民訪問団26名、経済訪問団37名の皆さんが中国・福州市を本日23日（月）から27日（金）までの4泊5日で訪問し交流を深めました。私も公式訪問団の一員として参加しましたので以下報告いたします。

中国・福州市との友好都市締結30周年を記念した長崎市の訪問団（団長・長崎市長）約100人は、7月23日（月）長崎空港で結団式を行い、福建省の省都福州市内の福州西湖大酒店（フクシュウセイコダイシュテン）ホテルに到着。到着後、歓迎レセプションが行われました。結団式では団長より、市民訪問団（20名）は「交流が続くよう友達になって楽しんでもらいたい」経済訪問団（38名）は「次に繋がるヒントを得てもらいたい」公式訪問団（38名）は「友好・交流を深めてもらいたい」など直接会話をし体験する事も必要であるとの挨拶があり、長崎を出発しました。



歓迎レセプションでは、共産党福州市委員会の袁榮祥書記や蘇增添福州市市長約20名の皆さんが私達公式訪問団を出迎え、メンバー紹介・会談・記念品交換が行われました。袁書記からは「両市では多くの分野での交流が成功を収めている」とのお礼の挨拶があり、その後団長より「今回の訪問は30年という歴史を礎により深い友好関係を築こう」と挨拶されました。

2010年8月24日（火）記念植樹と教育コース研修

福州市は、国の歴史文化都市、福建省の省都であり、面積は1万1968平方キロ（長崎市の4.8倍）、人口は約670万人超（長崎市の15倍）の近代化が進んでいる街です。訪問団2日目、8月24日（火）7時に朝食をとり、8時に福州市閩江公園を目指しホテルを出発しました。8時30分から同公園で「福州市と長崎市の友好都市締結30周年記念植樹式典」が行なわれ、福州側約20名、長崎側全員（水産コースを除く）の参加のもと榕樹（カジユマル）が植樹されました。



植樹後、各グループに分かれ各研修コースに参加しました。私は、全国ペーロン選手権大会に福州市の体育局職員幹部16人と合同チームを編成した福州市体育局を表敬訪問し、あわせて体育学校の視察・意見交換会を通じ更なる交流を深めました。この体育学校は、オリンピック競技の23種目の教育コースが教えられ、日本とほぼ同様の6年（小学校）・3年（中学校）・3年（専門学校）の教育が行われ、児童数約1000名が教育を受けているそうです。当日は、試合形式の練習（バレー・バスケット・レスリング・トランポリン等）を見聞し、真に世界的視野にたった英才教育が行なわれていました。この練習風景を見ると、オリンピック・世界大会でメダルを受けるのは当然の結果（体育学校の出身者ワールドチャンピオン10数名超）であり、福州市あげての支援体制が構築されているのを感じました。日本の場合は、ごく一部の選手が候補者となり、合宿を行い各大会に出場し表彰を受けている事が正に快挙の出来事と思えました。（写真は将来の世界大会のメンバーと成り得る、中学校の生徒の皆さんです）



8月24日（火）合意書調印式・コンサート・クルーズ

8月24日（火）17時30分から福州市の宿泊ホテルにおいて同市主催の記念祝賀会に出席しました。祝賀会に先だって開かれた友好交流合意書の調印式では、長崎市長に「福州市榮譽市民」が、福州市長に「長崎市国際親善平和榮譽証」がそれぞれ贈られ、長崎市長は「観光・経済交流など新たな段階に歩み出す時期に来ている」と話し、友好交流合意書に署名しました。その後、18時10分から長崎市・福州市友好都市提携30周年記念祝賀会が行なわれました。



祝賀会終了後、福州市側の配慮で予定のコースになかった、中国三大温泉地区のひとつである温泉公園の視察を行いました。この公園では、毎日ボランティアの人が中心となり太極拳・武術・踊り・コンサート等々多くの市民（何千人？）が集い、楽しいひと時を過ごしていました。私達訪問団は、コンサート会場に案内されるや熱烈な歓迎を受けました。会場の責任者から訪問団の紹介があり、急きょ生バンド演奏が始まるなかマイクが渡され、市民の皆さんと一緒に中国語・日本語で「北国の春」を合唱し大いに交流を深めました。（この時点で21時を過ぎていました）



その後、20時30分から予定されていたナイトクルーズは大幅に時間が遅れましたが、福州市の特別の配慮で運航して頂きました。クルーズ船は3隻が特別に用意され（時間外の運航）、観光客向けにライトアップされた夜景を堪能しました。ホテル帰着は23時頃となり、タイトなスケジュールとなりましたが充実した一日となりました。

2010年8月25日（水）まちづくりコース研修

訪問団3日目、8月25日（水）今日も朝7時に朝食をとり、荷物をまとめ8時にチェックアウトを済ませたが、バスが出発時間に3台そろわず待つ事になった。午前中は福州市三坊七巷の視察、昼食後は福州空港へ移動の予定となっています。三坊七巷は市街地の中心に位置し、五代（西暦907～960年）時期に形成された北から南へと順に並ぶ10本の通りの総称で「明清の古代建築物博物館」「都市の道路制度の生きた化石」などと呼ばれているそうです。坊は役人や文人等が多く住んでいた所で、巷は庶民が住んでいた下町のことです。

2008年12月、福州市の旧市街の三坊七巷において、施設と道路が修復され歴史的景観が再現されています。工事には約40億中国元（約560億円）を投じ、総面積は約40ヘクタール、明・清時代の建物159軒が修復され、2010年5月18日完成しています。修復にあたっては、京都・奈良の文化財の保護を参考に、歴史を活かしたまちづくりとビジネス観光を目指し、2012年完成予定で整備が進められていました。観光客は1日約2万人、イベント時は1日約10万人が訪れるそうです。



福州空港へは予定通り到着しましたが、上海空港行き（17時25分発）の飛行機の便は、悪天候のため福州空港到着が約1時間超遅れ、出発時間も大幅に遅れる事になりました。その間、公式訪問団は福州市の配慮で貴賓室（VIPルーム）にて約4時間待機し、19時20分頃ようやく上海空港へ飛び立ちました。上海空港へは21頃到着、上海のホテルまで約1時間バスに乗り込み、ホテルでの夕食は22時過ぎとなりました。今日もタイトなスケジュールでした。

2010年8月26日（木）上海万国博覧会

訪問団4日目、8月26日（木）今日の朝食は昨日よりも早く6時30分、ホテル出発は8時30分。午前中は上海万国博覧会見学、午後からは上海見学、夕方はオプションツアーとなりました。上海万国博覧会は、5月1日から10月31日までの半年間開催されています。会場は上海市を流れる黄浦江（こうほこう）の兩岸にあり、総面積は328ヘクタールもの広さ、参加国は242の国・国際機関が出展、過去最大の規模と過去最大の入場者（約7000万人）が見込まれています。当然、会場が広いので各パビリオンを観覧するのはごく一部の箇所となりました。（私は入場待ちの少ない朝鮮民主主義人民共和国館、イラン館等見学しました）人気のパビリオン会場は、長蛇の列となり数時間待たなければならぬ状況です。暑さ、日差し対策の帽子等は持参していなかったため、ゴルフ帽を中国元20元（約300円）にて購入しました。



8月26日（木）「孫文と梅屋庄吉展」

辛亥革命（1911年）により清朝の皇帝支配に終止符を打ち、「中国革命の父」と称される孫文。孫文の活動を支え続けた長崎出身の「梅屋庄吉」。二人の盟友関係を紹介する、日本館の特別コーナーで開催されている「孫文と梅屋庄吉展～温故創新～」友情の歴史を見学する事が出来ました。梅屋のひ孫小坂文乃（日比谷松本楼常務）さんが中国（孫文記念館）の協力を得て、庄吉夫妻と孫文夫妻のドキュメンタリー映像（知られざる友情の軌跡）や手紙、記念写真等が展示されその友情の歴史・強い絆が紹介されていました。「革命の兵を挙げたまえ、我は財を挙げて支援する」「ワレ中国革命ニ関シテ成セルハ 孫文トワレトノ盟約ニテ成セルナリ」など庄吉の遺言により公開されず、歴史の中に埋もれていた日本人の生涯を知りました。



庄吉は、1868年（明治元年）長崎で生まれた。父は、貿易会社「梅屋商店」を営み、長崎と上海との貿易の草分け的存在と言われ、相当な資産家であったが庄吉は米穀相場に失敗し中国に渡った。写真術を学んで写真館を営むなど富と地位を築き、映画興行で莫大なお金を得て（現在で約4億円）日本に帰国している。帰国後は、Mパテー商会という映画興業会社（日活・日本活動写真株式会社）を設立し、映画事業でも成功を収めている。庄吉は商才に恵まれ、時を読む的確な判断力と度胸、よいと思ったことは即断即決で実行し莫大な利益を上げ、その利益を孫文の革命に資金として、1兆円規模（現在の貨幣価値）の支援を行っている。アジア友好・平和、日中親善のため今の日本人は庄吉のように支援できるのだろうか？見返りを求めず男の約束を守り続けられるのか？今後の日中友好、経済交流の視点からも是非長崎での企画展を期待するものです。

豫園視察

午後からは、上海市内の「都市の中にある山水」と呼ばれる豫園（よえん）の視察を行いました。さすがに真夏日であり、暑さと人の多さで疲れも少し出て来ましたので、現地添乗員の案内で特産品の専門店（お茶）で休憩をとる事にしました。休憩場所ではお茶の美味しい飲み方の話があり、その後販売コーナーに案内されました。さすがに観光客相手の商売上手に感心しました。今回唯一のフリータイムである夕方は、世界的にも有名な上海雑技のサーカスの鑑賞ともっとも上海らしい輝きを見せるライトアップされた黄浦江（こうほう）のクルージングを選択しました。雑技はハラハラ・ドキドキ、危険と隣り合わせの技が次々に披露され、会場からは大きな拍手・声援が飛び交いました。クルージングの前に集中的な通り雨に出合い出港が危ぶまれましたが、なんとか上海の夜を楽しむ事が出来ました。連日ホテル帰着は遅く、明日は最終日（移動日）となります。



2010年8月27日（金）最終日訪問団帰崎

訪問団最終日、8月27日（金）モーニングコール5時30分起床、朝食は6時15分、最終日は朝の交通事情を考慮しホテル出発は7時、上海空港発は9時55分、13時すぎ無事公式訪問団長崎に帰崎しました。

今回の中国訪問、10数年前組合の役員在任中、市民訪問団のメンバーとして参加しており、今度で2度目の訪問となりました。オリンピック・万博開催の関係で、高速道路は整備されており、ETCも設置、交通量も従来と比較し大幅に増加。幹線道路周辺の住宅も整備され、電動自転車・スクーターが町並みを往来し、飛躍的に近代化が進んでいる事を実感しました。

しかしながら、幹線道路から一步生活道路に目を向けると、道路舗装の未整備・街路灯の不足、ゴミの散乱など見受けられ環境面では改善の余地がある。住宅密集地・集合住宅の夜間の照明も日本と比較すればうす暗い状況であった。ただ、広大な土地・山、大きな河川を見る時、日本と比較が出来ないスケールの大きさに度肝を抜かれたのも事実であり、競争社会のなかで今後伸びる要素は十分にあると感じました。

今回の訪問、ホテル・研修施設・ナイトクルージング等での横断幕・電光掲示板での歓迎の意が示され、福州空港では、福州市の配慮で貴賓室（VIPルーム）での対応、真にVIP待遇の対応（歓迎）であった。長崎でこのような歓迎は出来ないのでは・・・上海市内は、東京・大阪に負けないぐらいに都市も整備され、外資系企業の進出により経済も飛躍的発展をとげていました。

スケジュール的には、タイトな日程となりましたが体験と見聞を広め、所期の目的である友好・交流を深める事が出来ました。今後、この体験・経験を行政・議会のなかで活かしていきます。